

授業評価 2011 によせて

千葉大学工学部が 10 学科に改組されて 4 年が経ち、新しい学科では第 1 期生が卒業していきました。改組にともなって、各学科とも大幅なカリキュラムの見直しが行われ、今年度で、すべての授業が実施されたことになりました。改組の成果、状況を確認する上でも、「授業評価 2011」は大きな意味を持つものとなっています。

また、2011 年 3 月 11 日に発生した日本の観測史上最大の「東北地方太平洋沖地震」に端を発する「東日本大震災」は、本学の教育にも大きな影響を与えました。特に、前期の授業日程は、土曜日も含めて、大幅に修正して行わざるを得ませんでした。その中であっても、学生諸君、教職員ともに、大学の本分である勉学に従事されたことは、大変素晴らしいことだと思っています。その意味においても「授業評価 2011」は特別な記録になっていると思います。

学生諸君の建設的な意見は、教員側にフィードバックされています。学生諸君にとっては一度限りの授業かもしれませんが、「継続的な授業改善」が担当教員の力だけではなく、学生諸君の助力を得て、なされてきていることを「授業評価 2011」及び過去の冊子から読み取ることができることと思います。

工学部においては、将来の基礎となる科目もあれば、応用を紹介する科目あります。同じ教員であっても、科目に合わせて授業のスタイルは変わります。無味乾燥に思われる授業でも、学生諸君の将来を考えて、試行錯誤を繰り返しながら改善しようと努めている例は少なくありません。「授業評価 2011」に目を通してみることで、そのことを感じてもらえれば幸いです。そして、自分自身の勉学計画に活かしていただきたいと思います。

教員にとっては、学生の声を次にいかす契機とするにとどまらず、「授業評価 2011」全体に目を通して見て頂きたいと思います。自分自身では気がつかなかった方策が見つかるかもしれません。当該の科目に限定した縦のつながりだけでなく、科目間の枠を超えた横の連携を取ることで、「継続的な授業改善」が思った以上に進展するかもしれません。「授業評価 2011」が、その一助になればと願っています。

最後に、アンケートに協力頂いた学生諸君、執筆頂いた教員各位、最終的に報告書を取りまとめて頂いた教育委員ならびに学務グループの皆さんに感謝いたします。

2012 年 3 月

工学部副学部長（教育担当）

伊藤 智義

理想的授業とは？

10年の歴史を刻んで参りました千葉大学工学部の「授業評価」は、昨年度から新たな実施方式で行われ効率化が図られましたが、今年度も質を損なうことなく目的をほぼ達成できたと思います。

今回で「授業評価」は11回目となり、新方式のもと数年は維持、検討が必要かと思われませんが、一方で、そろそろ、評価から見える模範的授業、理想的授業が何であるかを良く検討すべき時期に来ていると思います。

洗練されたアンケート内容により、模範的授業が高い評価を受けているという良い相関、傾向がみられることは言うまでもありませんが、今後はさらに、アンケートで良い評価を得ているやや規格化された授業ばかりではなく、これまで体験したことのない(?)「これぞ大学の授業!」というものも、アンケートを通して見えてくる必要があると感じております。

受講者に嫌でも浸透する、受講者が忘れたくても忘れられない、とても楽しく役に立つ衝撃的(?)授業とはどのような授業か、受験勉強に疲れた新入生が、目を輝かせて卒業研究に取り組めるようになるまでのプロセス、メニューとはどのようなものか、「つねに、より高きものをめざして」頑張っている千葉大学の重要な研究テーマです。

授業アンケートの裏面には、学生から教員に直接言いづらい要望、コメント等が結構書かれていますが、そのほとんどが、早く授業中に言ってもらえたら、という内容です。言えるようであればアンケートは必要無し、ということでしょうが、その場で伝えられ、すぐに解決、前進できる雰囲気をつくるのが、最も大切なことでしょう。必要最小限の勉強、出席回数、コミュニケーション、単位等々で、卒業証書という究極の紙片を手に入れ淡々と卒業する、ある意味、とてもスマートな学生生活を送っている方も少なからずいると思われませんが、千葉大学で奇跡的に出会った学生と教員が、もっともっと日常的に関わり、互いに引き出すことが必要かと思われれます。まだ当分のあいだ必要と思われるアンケートに磨きをかけつつも、アンケートが不要となる日を期待します。

最後に、アンケート実施に多大なる御協力を頂きました学生、教員、教育委員、学務グループの皆様に、心より御礼申し上げます。

2012年3月

工学部教育委員会

委員長 浅沼 博